

# 年頭のご挨拶

## 行政

山都町長 甲斐 利幸

明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様にご不便をおかけしております。新庁舎建設について、県の事業認定の告示があり、多くの方に用地を提供していただきました。今年は、庁舎建設に取りかかります。九州中央自動車道の建設予算については、昨年度に比べ、公共事業の抑制という方針から大幅に削減されましたが、まずは、北中島インターチェンジ（仮称）までの早期供用に向けて、国と協議を進めています。

山都町の農林業においては、口蹄疫の侵入を封じ込めることができませんでした。夏秋野菜においては、前年度に比べ大幅に生産額を増やしました。

昨年の年の瀬、近来にない降雪に見舞われ、元日の習慣としている、小一領神社、幣立宮詣をあえなく断念せざるをえませんでした。家に籠もりながらも、あらためて無垢な新雪の銀世界に、気持ちすがすがしかったです。凍てつく外気に、新春を迎え、今年の町政に対する士気の昂然たるものを覚えめました。

今年は、合併して7年目を迎えます。新しい町としての一体感を築くため、身近で、優しい町政に積極的に邁進します。

ます。皆様にとって頼りになる町政を目指します。住民自治の高まりを期待する施策を展開し、誇らしい山都町づくりに果敢に取り組みます。

閉塞感に覆われている現代ですが、こういう時代こそ、町と町民の皆様が、現状を打開し、切り抜け、事に当たるという強い意識の共有が必要であり、そのことにより、町政も適確に対応できます。

今年も、①道路整備や通信手段の整備等生活基盤の整備、②農林業、工業の振興、③明るい福祉社会の建設、④観光振興と九州新幹線を考えた賑わいのあるまちの建設、⑤文化行政推進と人づくり、これらの施策を軸に山都町の元気を盛り上げます。

町民の皆様の町政に対しての積極的な参加と協働をお願いし、本年が皆様にとって素晴らしい、可能性が膨らむ年となりますようお祈りいたします。



## 議会

山都町議会議員 藤川 憲治

明けましておめでとうございます。町民の皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

人は何か事を始めるときは、心に期するものを持ちます。だから、一生懸命であり、謙虚であります。すべてのことが新鮮で人の言動、社会の事柄、あらゆるものが自己向上につながります。しかし、時日を経るに従って、その強い思いはともすると薄れ、それに従って熱意や謙虚さも失われていきます。

私自身も、議長就任一年目の昨年は、すべての面におきまして今までとは違った立場で、町民の皆様のため、その役割と任務に、自分なりに努めて参りました。力不足の面もありましたが、皆様のご指導、ご協力に心より御礼と感謝を申し上げます。

平成23年も、選良された議員として、この町の議会を代表する議長として、初心に返って議員活動、議会活動に邁進して参ります。

夢と期待を抱いた21世紀もはや10年が過ぎましたが、現実には誠に厳しいものがあります。

長引く不況に政治の混迷、加えてさまざまな問題を抱える世界の国々との

関係が状況を複雑にしています。

時代の大きな流れ、厳しい環境の変化の中での、新年の幕開けであり、先行きに対し、安閑としていられない日々が続くと思います。

今、皆様のかげがえのないこの故郷「山都町」は、少子高齢化や過疎化の流れに歯止めがかけられない厳しい状況ですが、このことは、何もこの町だけの問題ではありません。

農林業の衰退、地域経済の低迷など、全国の地方が、特に中山間地域は、大変な危機にあります。故郷「山都町」の活性化や再生のため、皆様の知恵と汗が必要です。

合併以来、最大の課題であった新庁舎建設については、昨年11月、ようやく県の事業認定の告示がなされ、大きな節目を越えることができました。すでに取り付け道路の工事も始まり、皆様に対するご不便とご迷惑を一日でも早く解消するべく、早期完成を目指し、議会としても取り組んでいきます。

3月には、待望久しかった九州新幹線鹿児島ルートが全線開通します。その効果に熊本県も県下市町村も期待し、いろいろな施策を展開しています。観光資源に恵まれた山都町も、周辺自治



体と力を合わせ、目玉のルートの開発が急務です。

九州中央自動車道も予算が削減されるなか、早期開通を目指して、官民あげて要望、提言活動に力を入れております。

このように夢や希望もあります。不安や心配困難なことが多い幕開けではありますが、発想を変え、新年を機に気分一新を図りたいものです。

最後になりましたが、町民の皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。